

外国籍児童・
生徒のための

学習支援ボランティア養成講座を実施しました！

10月の間で5日間の学習日を設け、鈴鹿市男女共同参画センターで、市教育委員会日本語教育コーディネーターの杉谷先生を講師に迎えて、学習支援ボランティア養成講座を実施しました。

今回の講座は、6名の方にご参加いただき、外国籍の児童・生徒の現状を理解し、教育現場の様子を理解しながら、安心して活動していただけるように行いました。講座の様子を報告します。

第1回 {鈴鹿市における外国人児童生徒の現状}

最初に、先生から学校現場の紹介がありました。鈴鹿市では、鈴鹿型コミュニティスクールという仕組みをとっていて、地域の方が、見守り・学習支援・夢工房・環境美化等の活動にそれぞれの学校ごとで関わっているとのことでした。

また、子供たちの現状として、母語でも、日本語でも会話が難しい「ダブル リミテッド」の子どもが親の移動により出てきていること、公立学校に通う子どもが10年で2.5倍に増えたこと、子供たちの国籍のこ



とを教えてくださいました。

そして、こういった子どもたちが市内に広く分散しているといった鈴鹿市の特徴や、市全体の取り組みとして個々の日本語能力を把握するために、JSLバンドスケールを取り入れていることといった説明がありました。

その後、2班に分かれ、ボランティアとしてできることを、ワークショップ形式で話し合いました。ワークショップでは、今までの経験やこの講座に参加したきっかけ・思いなどを出しながら、子どもへの支援について考え、発表しました。



第2回 {鈴鹿市教育委員会の児童・生徒支援}

2回目は、鈴鹿市の全公立学校で取り組んでいる日本語教育について、いろいろと教えてくださいました。市内の学校の大きな特徴として、「小集団指導による指導」と、子どもが在籍学級に戻っても勉強を頑張れるように、教科書を子どものレベルごとに作り直した「リライト教材」があります。

小集団指導では、子ども同士の競争心をうまく引き出し、子ども同士の学び合いの場を作っています。お友達の意見を聞いて、自分の意見を言うことは、在籍学級に戻ってからの学習でも大きな力になっています。



リライト教材は、市内の教員同士でより良い授業を作るためのネットワークから生まれました。ワークシートもあり、友達の意見を聞いて書くなど、学び合いの工夫が施されています。

また、国際学級では、教科書に載っている内容を動作で考えたり、実際に体を動かしたりして、本の内容を確かめる活動も取り入れているそうです。

ほかにも、すべての先生が在籍学級で授業をする際、助詞を抜かない等、正しくてわかりやすい日本語を話すことや、授業の最後に子どもにも内容を理解したか聞くように努めているそうです。

また、子どもたちは、思春期を迎える頃に「私は何人？」と、アイデンティティについて考えるようになり、多感な時期に進路選択もしなければなりません。そのため、保護者の支えがとても大切なので、進路ガイダンスでは先輩に体験談を聞く際や、学校別の相談の際に通訳を付けて多言語対応して実施しているそうです。

その後のワークショップでは、ボランティアをする時の流れや、こういったものがあればいいというものを出



し合いました。子どもを理解することを最優先に考えながら、短い言葉でわかりやすく話すなど、工夫していくポイントを話し合いました。そして、学校と連携したり、国際学級のような小集団での学習など活動内に取り入れていけるといい結果になるのではないかと話を合いました。

第3回 {外国人学校（ブラジル人学校）における学校教育}

ブラジル人学校 Escola Alegria de Saber の見学は、日本の小学校と雰囲気や授業風景、子どもの様子などを比較するために行いました。

流暢に日本語を話されるアビさんに、校内の施設を案内していただきました。EAS の生徒は、朝早くからバスで遠くは蟹江町や、伊勢市から来ており、学習時間は午前の部と、午後の部に分かれています。

そして、敷地がそれほど広くないため、休み時間をずらしてとっているそうです。また、災害時に使うためのヘルメットが、それぞれの机の横に掛けてありました。敷地内に売店があり、休み時間に買えます。これも、ブラジル人学校の特徴だと思います。

授業見学では、4年生（日本の5年生）のクラスで立方体の模型を使ったゲームを、8年生（日本の中学校3年生）のクラスでは、不等式の授業を見学しました。先生とのやり取りなど、全然日本と違うので、とても新鮮な経験でした。

第4回 {桜島小学校 放課後学習支援教室の見学}

桜島小学校で実施されている放課後学習支援教室を見学しました。帰りの会を終えた子どもたちが、視聴覚室へ来て、それぞれの学年ごとに集まって、宿題を見てもらっていました。本読みの宿題や、算数の宿題をボランティアさんが見ている所に、見学だけでなく一緒に入っていました。

最初は、難しく感じたかもしれませんが、子どもたちと過ごす時間は、とても貴重な機会になったと、思います。

第5回 {子どもたちがつまづくところ}

杉谷先生に、子どもたちが学習で難しいと感じるところを教えてくださいました。一つは、日本語学習について、もう一つは、教え方の違いです。また、学習の中身が日本語の表現によって、難しいと感じるそうです。

ボランティア活動をするうえで、子どもとの関係も大切なことです。子どもの会話を引き出すテクニックも、いろいろと教えてくださいました。最後に、「子どもが、学ぶことを通して将来の夢を自己実現できるために、他のボランティアさん、先生、親御さんとの連携をし、活動していただければ」と、おっしゃっていました。



杉谷先生の講義の後、ボランティアをされている松島さんに、体験談を話していただきました。外国籍の子どもが、夏休みの宿題の作文ができなくて持ってきたとき、どうやって支援したかや、子どもの成長を感じ取れた経験を話していただきました。また、一緒に喜ぶこと、励ましてあげることが、子どもにとって、とてもプラスになるといったことを話していただきました。どうもありがとうございました。

結びとして、杉谷先生から「活動に際して困ったことがあれば、教育委員会としてきちんと対応します」と、心強いお言葉をいただきました。この講座をきっかけに、ボランティアの皆さんが細く、長く、活動をしていただければと思います。

このレポートを読まれて、学習支援ボランティアにご興味をお持ちの方は、国際交流協会までご連絡ください。教室活動にお繋ぎいたします。

